

## 高校生の札幌国際甲殻類学会 (IAA & CSJ Joint International Conference on Crustacea IAA 20) 参加・英語での発表報告 :

大島暢人 (神戸市立六甲アイランド高等学校 2年)  
丹羽信彰 (顧問)

### [札幌での演題] : 高校生の発表

Some examples of interaction on the host shrimp *Neocaridina* spp. and two ectosymbiotic worms *Holtodrilus truncatus* and *Scutariella japonica* from the Sugo River in western Japan.  
Nobuaki Niwa, Nobuto Oshima

兵庫県菅生川に生息する淡水エビ *Neocaridina* spp. に付着するヒルミミズ *Holtodrilus truncatus* と *Scutariella japonica* の宿主エビに対する関係のうち、観察結果より得た興味深い行動を報告した。宿主エビが弱ってくると、いち早くヒルミミズは元気なエビに救命艇として避難するが、*Scutariella japonica* にはそのような性質はない。ヒルミミズのこの性質を利用して大量培養の可能性を論じた。

### 【本人の感想】

今回、国際甲殻類学会 (IAA & CSJ Joint International Conference on Crustacea IAA 20) に参加させてもらい、事前に私が心の中で思い描いていた日本の大学のイメージが大きく変わった。大学は「研究」をする場ではなく、むしろ「研究で得た成果」を社会へ還元する場であると感じた。また、私にとって英語でのポスターの発表は初めてで、準備の段階で、大変難しく苦労したが、何とか無事発表を乗り切れて、思いきって挑戦して良かったと思う。大会は外国の一流の研究者のみならず、日本の大学の教授クラスの多くの研究者が参加されており、その中には、日本のカニの研究の第一人者 故酒井 恒 博士の門下生の女性研究者、重松 玲子 様にもお出合い出来て大変意義深かった。研究者の心構えなどをうかがった。後に恩師のお一人植物生態学者の宮脇 昭 先生の著書「森の力」のサイン入りの書物も送って下さり大変親切にして下さった。また大学などの進路相談に乗って下さった方もいて、とても助かり、しかも、視野が広がった。人生の早い段階の高校時代に、このような本格的な国際学会の場の空気や緊張感を味わい参加出来たことが、これからの進路やこれから先の将来に繋がる大きな価値のあるものだと思う。是非この貴重な体験を将来に生かしたい。



ヒルミミズ研究の第1人者米国の Gelder 博士の前で堂々と英語で発表する大島暢人君。

なお本発表は、兵庫県生物学会・神戸大学サイエンスショップ共催『高校生・私の科学研究発表会 2014』(2014年11月23日) で発表し、兵庫県生物学会ポスター発表部門奨励賞を頂いた。